

## 市立伊勢総合病院の新病院建設に係る病床機能の転換について

平成 29 年度第 2 回調整会議において、市立伊勢総合病院の新病院建設後の病床機能をお示ししていますが、新病院の建設の計画に変更が生じたため、開設後に予定する病床機能の変更内容について、下記のとおり報告します。

### 1 病床機能の転換計画の変更内容

療養病棟 20 床を廃止し、療養病床 20 床を一般病床に区分変更した上で、地域包括ケア病棟を 40 床から 60 床に変更。

#### 【当初計画】

一般病床	240 床
(内訳)	急性期一般入院基本料 1 : 180 床 [高度急性期 20 床・急性期 160 床]
	地域包括ケア病棟入院料 2 : 40 床 [回復期]
	緩和ケア病棟入院料 : 20 床 [慢性期]
療養病床	60 床
(内訳)	回復期リハビリテーション病棟入院料 3 : 40 [回復期]
	療養病棟入院基本料 2 : 20 床 [慢性期]



#### 【変更後の計画】

一般病床	260 床
(内訳)	急性期一般入院基本料 1 : 180 床 [高度急性期 20 床・急性期 160 床]
	地域包括ケア病棟入院料 2 : 60 床 [回復期]
	緩和ケア病棟入院料 : 20 床 [慢性期]
療養病床	40 床
(内訳)	回復期リハビリテーション病棟入院料 3 : 40 床 [回復期]

### 2 病床機能報告上の変更見込み

	平成 29 年度 病床機能報告	新病院開設後 (平成 31 年 1 月予定)
高度急性期	49 床	20 床
急性期	200 床	160 床
回復期	30 床	80 床 ⇒ 100 床
慢性期	43 床	40 床 ⇒ 20 床
合計	322 床	300 床

### 3 転換計画の変更についての県の考え方

過剰な機能への転換ではなく、伊勢志摩区域で不足する回復期を増加させるものであること、一病院で高度急性期から慢性期における療養までの一連の医療を提供する状況から、急性期と回復期を中心とした機能に転換し、地域における医療機能の分化・連携を進めるものであることから、伊勢志摩区域地域医療構想との整合が認められると考えます。